

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 小田 伸次

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	小田伸次	経理責任者	
視察議員	会派ともえ・真正会(斉木議員除)・公明党			
期 間	平成 2年11月12日(木)～平成 2年11月12日(木)			
視 察 先	広島県 企業局(水道広域連携推進課)・地域政策局(スポーツ推進課)			
視 察 用 務	<ul style="list-style-type: none"> ・県内水道広域連携について ・スポーツアクティベーションひろしまについて 			
視察先対応者	企業局長 沖邊、水道広域連携推進課長 川西 地域政策局総括 塩谷、課長 杉山、アクティベーション代表 神田			
概要及び所見	<p>・今後の上下水道事業を継続・展開していくには、もはや単独自治体だけでは無理がきている状況にある。(世帯減少などによる料金収入の大幅減が予想される)施設の維持管理や更新、専門の人材不足を補う為にも今から議論検討を始め、水道事業の経営基盤安定を図り料金の平準化に取り組む必要がある。とのレクチャーであった。まさに、本市もその一員となって、生活に欠かせない水道事業の将来に取り組む必要性を実感した。</p> <p>・スポーツを通して地域性を活かしたアクティベーションが今後の地域活性化の一端を担う。三次にはその可能性が大きいとのことで、次のことを提案された。いま注目を浴びつつある「女子野球」というコンテンツの活用。様々な団体の大会を誘致するにはとても良い地域であるとの話。具体には、西日本硬式女子野球大会・中四国高等学校女子野球部合同合宿の誘致が提案された。経済効果は1億はある。現実味のある提案ではないかと思う。三次にあるスポーツ施設の有効利用(街の活性化)として実に面白い。市として積極的に検討する事を伝えたい。</p>			

令和2年11月29日

三次市議会

議長 新家 良和 様

三次市議会 会派ともえ

新家 良和

会派代表者

経理責任者

3 会派行政視察報告書

- ◆視察日程：R2年11月12日（木）
- ◆視察先：広島県企業局、スポーツ推進課
- ◆視察内容：広島県水道広域連携推進方針、スポーツアクティベーションひろしまについて
- ◆会派：ともえ 5名、真正会 3名、公明党 2名 計 10名

1. 広島県水道広域連携推進方針について

人口減少、少子・高齢化などの人口構成の変化、節水意識の向上や節水機器の普及による水需要の減少など、三次市の水道事業を取り巻く環境は大きく変化している。簡易水道を統合し企業会計に移行した水道事業会計は、3年が経過した。簡易水道料金と水道料金の価格差が、統合前約50%存在していた。統合と同時にH29年度、旧市内の水道料金を20%値上げし料金差を圧縮する取り組みを行ってきた。当然の帰結であるが、簡易水道を統合することによる1㎡の供給単価と給水原価の逆ザヤが拡大することに繋がった。

R元年度の決算によると、供給単価は204.53円、給水原価は274.59円で逆ザヤは70.06円/㎡となっている。旧市内の水道料金を20%値上げしても、統合前のH28年度に比べ約20円逆ザヤが拡大している。行政サイドは、未だ現存する簡易水道と水道料金の価格差是正を行う必要がある。更に供給単価と給水原価の逆ザヤを解消するため、第2、第3の料金値上げを必要としていると思える。また水道事業は給水開始から50年を経過し、老朽化した多くの管路が更新の時期を迎えており、順次計画的に整備・更新していく必要がある。このような背景から、7月27日の全員協議会で「水道広域連携について」説明し、8月18日には「水道料金等検討委員会」を立ち上げたものと思える。

全員協議会における広域連携には、反対の立場からの質問・意見も出された。三次市の水道事業を取り巻く多くの課題を踏まえ、3会派による「広島県水道広域連携推進方針」について研修を行った。広島県企業局の川西課長より、県の方針について説明頂き質疑を行った。市町の枠を超えた「広域連携」により、経営基盤の強化を図ることが有効としている。このような認識のもとH30年4月、市町と「広島県水道広域連絡協議会」を設置し議論を重ねている。広島県は県内を5つのエリアに分け、県内水道事業の経営組織を一元化し、全体最適を図りながら事業運営ができる「統合による連携」が適当と考えている。三次市は、庄原市、安芸高田市、北広島町（東部）、世羅町（西部）、府中市（上下町）と江の川エリアに区分されている。

目指す姿として、「健全な経営基盤を確立し、地方公共団体の責務として、将来にわたり安全・安心な水を適切な料金で安定供給できる水道システムを構築する」としている。広域連携の基本的枠組みは、県全域を範囲とし、経営組織を一元化する「統合による連携」が適当（統合のインセンティブとして有利な国交付金の活用が可能、施設再編整備経費の1/3、耐震化経費の1/3）との見解である。市町間の料金格差解消に向けた検討が可能（まず市町別料金を維持して統合し、市町間の格差を縮小していくことが必要）。統合の受け皿は、市町と県で構成する「企業団」が適当。などとしている。

広域連携による効果として、①県全体の40年間の効果額は、約1,708億円、②すべての市町・県で効果が見込まれる、③単独経営でも広域連携でも料金の上昇は避けられない見込みであるが、単独経営に比べR43年時点で料金の上昇率を26%抑制することが可能、④すべての市町・県で単独経営に比べ料金が下回る、と結論付けている。ロードマップは、●市町は、R2年度末までに県の方針に対する判断を行う（R3年度以降の判断も可能）、●統合による連携に賛同する市町と県は、R3年度に基本協定の締結、R4年度に企業団設立、R5年度の事業開始を目指す計画である。

三次市の水道事業は、料金体系や料金値上げの問題、老朽化した配管や施設の更新の問題など、今後の事業運営に極めて厳しいものが想定される。広域連携によるメリットについて伺ったが、デメリットについては明確でない。水道事業で黒字経営を行っている広島市と福山市の大手自治体が、広域連携に参加しないと意思表示しているのも気がかりである。両市とも広域連携に参加し、水道料金が値上げになるのでは全くメリットがないのも理解できる。三次市として広域連携に参加することが、将来的にメリットがあると思えるが、行政サイドのより丁寧な方針説明を議会や市民に行うことが必要である。三次市の水道料金値上げは、避けて通れない。広域連携が料金値上げにつながるイメージを、市民に与えてはならないと考える。

2. スポーツアクティベーションひろしまについて

広島県では地域のスポーツ資源を活用しながら、それぞれの地域が目指す地域づくりを

支援していくため「スポーツアクティベーションひろしま (SAH)」を設置し、市町の推進を応援している。その取り組みなどを、SAHの神田康範代表より説明頂いた。最も興味をもった内容は、SAHの三次市に対する取り組みである。

三次市の特徴を、①スポーツとの親和性が高いまちとし、「スポーツのまちみよし」の推進、プロ野球公式戦の開催実績がある「三次きんさいスタジアム」、オリンピック参加国の事前合宿にも利用される「陸上競技場」をあげている。②女性の多様な選択、チャレンジを支援するまちとし、第2次三次市総合計画において「女性の活躍」を明記、女性が働きながら子育てできる環境日本一を目指す、ことを挙げている。

このような三次の特徴を生かし、持続可能な形で、市民が活性化の効果を実感できるものとして、「女子野球」というコンテンツを提案している。R2年の女子野球の競技人口は約3,500人、チーム数は84チームで、この10年間で6~4倍増加している。R3年4月、山陽高校の女子硬式野球部創設など、全国で20チーム近くが創部予定と伺った。また侍ジャパン女子代表(マドンナジャパン)の快進撃など、女子野球の近況などを含め全く知らなかった内容も理解できた。

神田代表は実行可能なアクションとして、①R3年秋開催の「第7回西日本硬式野球女子大会」、②中四国高等学校女子野球部合同合宿」の誘致を提案された。これらの誘致を行うことで、県内外から「1,000人泊~400人泊」や三次ワイナリーなどスタジアム周辺施設や市内の賑わい創出、2つの誘致で1億円の経済効果が期待できるとのことである。行政として、会場確保・使用料の減免、宿泊確保の斡旋など受け入れ支援が必要であるが、今までにないこの提案が実現できれば、「女子野球」を三次の看板として全国に発信できると思う。三次市に「女子野球チーム」が誕生すれば、申し分ないと思う。

以上

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 藤井 憲一郎

下記の通り、教育民生常任委員会の視察が終了したので報告します。

記

視察議員 会派ともえ(新家良和・小田伸次・弓掛元・藤井憲一郎・月橋寿文)
真正会 (杉原利明・鈴木深由希・横光春市)
公明党 (黒木靖治・中原秀樹)

期間 令和2年11月12日(木)

視察先 広島県庁

視察用務 ①広島県水道広域連携について②スポーツアクティベーションひろしまについて

視察先対応者 ①広島県企業局水道広域連携推進課 川西課長
②広島県地域政策局スポーツ推進課 杉山課長
SAH 神田代表 他

概要及び所見

①過疎化する地方都市に於いて、今後上下水道の老朽化による更新等は大きな負担となり、課題となる。本市でも水道局よりかねてから説明を受けているが、広域連携する事による疑問、メリット・デメリットについて広島県の担当課に直接話を聞く機会をと、今回の視察の場に設けた。

既に平成30年4月より全県市町と協議会を立ち上げ協議を重ねている事、県内を水系により5エリアに分け統合する事、交付金が活用出来る事、単市で経営するより値上げ幅が抑えられる事、単市で困難になりつつある技術者の確保もしやすくなる事、そして最後に、連携に参加を表明していない広島市・福山市が後悔するような組織づくりを広島県がバックアップするという力強い言葉があった。本市にとってデメリットは無いと思われるが、最終的に市民への丁寧な説明が必要である。

②当初「スポーツアクティベーションひろしま」を研修項目に入れたのは「スポーツイベント等を通じて稼げる事業展開を」という事業だと思い込みでセッティングした。何うとそんな短絡的な事では無く、県内の各自治体の特色やスポーツインフラを分析し、その地域に根差すスポーツを推進するという夢のある事業であった。本市も「スポーツのまち三次」をスローガンとし、運動公園やスタジアムが整備されている事や「女性活躍支援」にも力を入れている事を勘案し「女子野球」の推進が提案されている。レクチャーを受けた全議員が驚いたのではないか。競技人口も増加しているスポーツで、全国大会も開催されている。先ずは大会誘致、そして合宿誘致、そしてクラブ発足へという流れに希望を持った。早速本市のスタンスなどを確認し、この事業に賛同していく事を進言したい。

研修等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名

弓掛 元 印

下記のとおり、研修が終了したので報告します。

会派代表者	小田 伸次	経理責任者	藤井 憲一郎
-------	-------	-------	--------

視 察 議 員	弓掛 元
期 間	令和2年11月12日（木）
研修先	広島県庁
研修要務	広島県における水道広域連携について スポーツアクティベーションひろしまについて
研修講師	広島県企業局 課長 川西 隆弘 SAH代表 神田 康範
概要及び所見	<p>最初に広島県水道広域連携推進方法についての説明を聞いた。 かねてより三次市水道局より説明を受けていたが広島県の方からじっくり内容を聞いて改めて統合の重要さを痛感した。水道設備の老朽化は深刻で各自治体で処理できる能力を超えている。早期の連携を本市も積極的に進めるべきと意を新たにした。</p> <p>スポーツアクティベーションひろしまの概要には正直言って目から鱗であった。スポーツで地域おこし、スポーツで稼ぐという発想は色々考えてはいたが実際に広島県におけるスポーツ施策推進体制があり具体的にプランを提示された。実現不能な夢物語ではなく実行可能なプランであり是非進めて行きたい。SAHがプラン提供してくれた、女子野球をキーワードに大会誘致、合宿誘致、その先にクラブチームの発足と夢は広がる。経費的に大きな投資も不要で既存の施設を活かす事で地域活性化を図りたい。</p>

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名

月橋寿文

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	経理責任者
視 察 議 員	会派ともえ議員 新家・小田・弓掛・藤井・月橋 真正会議員 杉原・鈴木・横光 公明党議員 黒木・中原	
期 間	令和2年11月12日（木）	
視 察 先	広島県庁	
視 察 用 務	水道広域連携・スポーツアクティベーション勉強会	
視察先対応者	広島県公営企業管理者 沖邊企業局長 広島県地域政策局 スポーツ推進課 杉山課長 広島県地域政策局 スポーツ推進 塩谷総括官 CANDY SPORTS INTERNATIONAL 神田 CEO	
概要及び所見	<p>【広島県による水道事業の広域連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域連携を進める理由 1. 人口減少による料金収入の大幅減少 2. 施設老朽化による維持管理や更新の費用の増大 3. 技術職員の人材不足 <p>これらの課題に対応して、適切料金の安心安全な水を安定して届けるために、県内の広域連携を進めている</p> <p>令和5年4月に企業団を設立し、市町の単独経営から経営統合に変更していく目標</p> <p>一番の問題は、広島市と福山市が広域連携を拒否していること</p> <p>三次市は、広域連携を検討中</p> <p>【スポーツアクティベーションひろしま】</p> <p>スポーツを核とした豊かな地域づくり</p> <p>それぞれの市町にあった、わがまちスポーツの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福山市 エフピコ福山を拠点とした賑わいの創出 ・府中市 ものづくりとスポーツの融合 ゼロハンカーのまち府中の浸透 	

・北広島町 スポーツをキーワードとした地方創生事業に向けた北広島版の SC の設立

それぞれの地域における課題を引き出し、アドバイザリーボードメンバーの協力の下、解決

⇒スポーツを活用した地域活性化を加速度的に推進

スポーツとの親和性が高いまち三次

プロ野球公式戦の開幕実績もある「三次きんさいスタジアム」を活用した「女子野球」というコンテンツを全国に先駆けて行う

実行可能なアクション

- ・第7回西日本硬式野球女子大会の誘致
- ・中四国高等学校女子野球部合同合宿の誘致

実現すれば、宿泊や観光などの経済効果が見込め、将来は女子プロ野球の選手の誕生など夢のある企画